

平成21年度水環境文化賞を受賞して

シナイモツゴ郷の会 二宮景喜

私たちシナイモツゴ郷の会は、宮城県大崎市の鹿島台地区を中心に活動している、正会員、賛助会員あわせて約115名の団体です。シナイモツゴという在来魚を保護する活動から始まり、今では生態系や水環境全般にも眼を向けた活動を続けています。今回、これまでの活動を評価していただき、水環境文化賞という権威ある賞を賜りましたことに深く感謝しております。

私たちの活動の原点であるシナイモツゴは、体長約8センチのコイ科モツゴ属の淡水魚で、1916年に鹿島台にあった品井沼で発見され、その地名を取って新種登録されました。従って鹿島台がこの魚の模式産地であり、私たちにとってまさにふるさとの魚なのです。以前は東日本のどこにでも普通にいた魚ですが、今では激減し、絶滅危惧IA類に指定されています。鹿島台近辺では長い間採取記録がなく、宮城県全域でも絶滅したものと思われていました。ところがうれしいことに、1993年、当地の山間にあるため池二箇所で60年ぶりに再発見され、旧鹿島台町はただちに天然記念物に指定し、保護してきました。しかし、このため池の一つにブラックバスが放流されたことがわかり、市民たちがシナイモツゴを救おうと立ち上がりました。これが2002年に本会が発足するきっかけでした。

それ以来、本会の活動の中心はシナイモツゴを保護増殖し、生息池を昔のように増やすことにあります。そのために、「だれでもできる自然再生」を合言葉に、シナイモツゴを卵から増やす人工繁殖技術を開発し、この技術を使って小学生が学校の池でシナイモツゴを育てる里親制度を設けています。今年は県内の5つの小学校で里親の子どもたちが、郷の会のインストラクターの指導の下にシナイモツゴを育てています。この活動を、生態系や水環境についての啓発学習または体験学習として、「総合的な学習の時間」の中に位置づけている学校もあります。

シナイモツゴに限らず、在来魚を絶滅の危機から救うためには、ブラックバスなど魚食性の外来魚の駆除が緊急課題です。本会ではボランティアを募集して、鹿島台近辺の池干しを毎年数箇所で行っています。また、宮城県北部の伊豆沼でも大掛かりなバス駆除に他の団体と協力して取り組んでいます。その過程で卵の段階でブラックバスを駆除する人工産卵床を改良し、実用化しました。現在はフェロモンに着目した駆除方法の開発にも共同で取り組んでいるところです。以上のような方法と刺網、タモ網、また最近は電気ショッカーを利用する方法を組み合わせて外来魚と戦っていますが、この戦いは長期戦になることを覚悟しなければならないようです。

繁殖したシナイモツゴは、遺伝子攪乱に注意しながら外敵のいないため池に放流し、生息池を増やすことが最終の目的になります。シナイモツゴなど多くの在来魚は、米作り農家が昔から良好に管理してきた田んぼや小川やため池などの水環境で生き延びてきた魚です。放流されたシナイモツゴがさらに増えていくためには、農家の人たちに、魚にとって好ましい環境をこれからも守っていただく必要があります。

そのため、シナイモツゴの生息するため池を守り、環境にも配慮した米づくりを応援する目的で、一昨年、当会独自の認証制度を作り、「シナイモツゴ郷の米」というブランド米を立上げました。この付加価値をつけた米を販売することで、農家を経済的に支援することもねらいの一つです。

この認証制度では、シナイモツゴの生息するため池の水を使用していること、定期的に水質検査を受けること、さらに環境保全米であることなどの厳しい基準をクリアした米のみを「シナイモツゴ郷の米」として認証し、販売しています。最近食の安全と生態系を守る活動への関心が高まり、一般の人からの注文も増えております。現在、収量はあまり多くはありませんが、2010年度からは参加する農家も増えますので、収量、販売量ともに飛躍的に増えることが期待されています。

その他にも、シナイモツゴのいるため池は生態系が豊かで、メダカやフナと共に絶滅危惧種のゼニタナゴも発見されていることから、ゼニタナゴの保護増殖にも今実験的に取り組んでいます。また、水の浄化に関わりがある天然のヒシに着目し、昔の食文化の復活を目指して、ヒシの栽培に取り組み、3年前から販売もしております。

シナイモツゴを守る私たちの活動が、今ではこのように多角的な活動になりました。シナイモツゴを保護することは水辺の生態系・水環境の保全と切っても切れない関係にありますから、当然の成り行きかと思えます。本会では、毎年秋にシンポジウムを開催して、県内外から多数の参加をいただき、情報発信と意見交換の場としています。ここでは全国で自然保護に取り組んでいる様々な団体と共通の目的でつながっていることを強く感じることが出来ます。これからも、そのような諸団体と協力しながら、生態系と水環境を守る活動を粘り強く続けて行きたいと考えています。

2010年は国際生物多様性年にあたります。このような時期に、シナイモツゴという地味な魚の保護に取り組んでいる私たちの活動に光をあてていただきましたことにあらためて御礼申し上げます。